



4年生道徳の授業

昨日15日(木)の5時間目に、4年1組で道徳の研究授業が行われました。教科書の中の「絵葉書と切手」というお話でした。

あらすじある日、ひろ子は友だちから料金不足のはがきを受け取る。ひろ子は、このことを兄と母に相談する。切手が足りなかったことを教えてあげた方がいいという兄と、お礼だけ言えばいいという母の意見の間で、ひろ子はどのように返事を書くか悩む、という話である。

今回の授業のめあては、「友達のことを考えるってどういうことだろう?」というものです。料金不足のはがきを友達から受け取った主人公の葛藤に共感しながら考える学習を通して、友達と信頼関係を築いていくことの大切さに気付かせていきます。そもそもですが、今どきの子供たちは絵葉書でやり取りしないし、料金不足で受け取った側が支払うという経験値も少ないのです。そこは、担任が絵葉書や料金不足について押さえ、ひろ子の気持ちにスポットを当てていきました。また、自分だったら兄と母のどちらの立場かをタブレットを使って、みんなで共有し、その理由を近くの人と議論しました。そうすることで、多面的・多角的な見方をもつことに繋がります。

今回の授業は「帯西グリーン」の心「友達を信じて助け合う」に向かって子供たちの心を耕しながら、「友達のことを考えるとどんなことだろう?」について一人一人が自分事として考えていきました。

そして子供たちは、「相手のためになることならばきちんと言いたい。」「友達には自信をもって伝えたいです。言わなかったら相手も嫌だし、自分も嫌になるからです。」「相手が傷つかない程度で伝えたい。伝ええることで、相手も自分もすっきりするからです。」など意見を出し合っ、道徳的価値の本質に近付いていく授業となりました。

今回の道徳の授業について、子供たちが帰った後に、全職員で授業研究会を行いました。道徳科に精通している外部からの講師も招き、職員一人一人が授業への疑問を出し合ったり、改善点を述べ合ったりしました。講師の先生も子供たちが自然と意見を出し合っている姿や、職員の前向きな姿勢に感心されていました。一つ一つの疑問点をみんなで考えることで、教師自身の学びとなり、力となりました。これからも全職員で、子供たちの道徳性を高める授業づくりを考えていこうと思います。

今回も、子供たちと職員とで帯西グリーンの心を醸成する方法について、しっかり考えることができる研究授業となりました。今回の授業は4年部でも共通実践を行い、4年生全員の心が育ちました。4年1組の皆さん、貴重な道徳の授業を共有させていただき、ありがとうございました。

